

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610410502	
法人名	医療法人 鴻伸会	
事業所名	グループホーム合歓の木	
所在地	徳島県阿南市新野町西馬場3番地の3	
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和5年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、利用者様全員の皮膚状態の確認を行い、異常(真菌、剥離、傷等)ある際は、看護師、Drに報告、相談を行い、改善するまで毎日処置を行っている。又、長期入所による高齢化、認知機能の低下等により日々の体調の変化等を見落とさない様務め、その日の体調に合わせて食事形態にも工夫している。尿路感染症、脱水等の予防の為、夜間帯もバット交換時等に合わせ水分飲用介助を全利用者様に行っている。利用者様の状態変化するたび、業務の見直しを行い、月1回のカンファレンス時に見直し事項のおさらい、意見交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に小学校や商店街がある住宅地に位置している。敷地内には、同一法人が運営する協力医療機関が併設している。訪問診療や24時間の連携体制を築き、看取り支援にも取り組むなど、利用者や家族等の安心に繋げている。“えがお満開”という理念を掲げ、利用者の笑顔を引き出す支援に努めている。利用者一人ひとりの心身状況に応じて、貼り絵や書道、踊り等、個別の支援やレクリエーションに取り組んでいる。気候の良い日には、近隣の散歩に出かけたり、ドライブで馴染みの場所や花見に出かけたりして、安全面に配慮しつつ、閉塞感を感じることのないよう支援している。管理者は、SNSを活用し、職員間で利用者の心身状況の変化等の情報の共有化を図っている。また、職員から意見や提案を聞くなど、働きやすい環境づくりにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中の特に「尊厳のケア」よりGHの理念「笑顔満開」を作り、日々利用者様の笑顔構築に向け努力している。	事業所は、“えがお満開”という理念を掲げ、利用者の笑顔を引き出すための支援に努めている。しかし、理念について職員間で話しあったり、見直したりする機会を設けるまでには至っていない。	今後は、職員間で地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、事業所の理念について話しあうことが望まれる。理念について話しあい、見直しを行うことで、さらなる理念の共有や実践に繋がることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の訪問交流、音楽、ダンスのボランティア、祭りの神輿見学、フロア内での浦安の舞の踊りなど、地域行事に日常的に参加していたが、コロナの影響でできていない。	事業所では、地域の小学生との交流やボランティアの受け入れ等を行い、交流している。感染症(コロナ等)の流行以降は、安全面に配慮し、交流を控えているが、今後、小学校との交流の再開に向けた働きかけを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症の人への理解、支援方法を地域の人に伝えていたが、コロナの影響以降開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、実践報告など行い、改善に向けご意見を貰い、職員間で話し合い新しい取り組みをしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。安全面に配慮し、各委員へ事業所の報告や便りを郵送している。郵送時には、返信用紙を同封し、各委員から意見を得るよう工夫しているが、双方向的な会議となるまでには至っていない。	今後は、運営推進会議の意義・目的を鑑み、各委員から意見を得るための働きかけが望まれる。各委員から意見を得て、職員間で検討することで、サービスの質の向上に繋がることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はコロナの影響で、書面のみで活動内容等のお知らせを送付し意見を貰っている。包括支援センター、市主催の勉強会に参加し情報交換している。	管理者は、定期的に、訪問と郵送を併用しつつ、市の担当課へ事業所の報告を行っている。市のグループホーム会議や地域包括支援センターの研修に参加するなどして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスに身体拘束についても話しあいの時間を作り、皆で勉強している。	事業所では、身体拘束に関する勉強会を開催している。カンファレンス等でも身体拘束について話しあっている。玄関の施錠についても検討し、開錠時間を設けている。帰宅願望のある利用者には、抑圧感を感じることがないように見守りや声かけにより、自由で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、日頃より職員間で話し合いをしている。言葉遣い、対応等の見直しも常時行い、事例等を用い、カンファレンス時に時間を設け勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	2階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、積極的に権利擁護に関する制度の勉強会に参加し利用者様家族を支援した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文書、口頭で必ず説明し、改定等が有れば、書面で送付した上で面会時や、電話等で説明を行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で開催出来ていないが、家族会で、参加者全員にアンケートを配布、ケアプラン説明時に要望を伺い、サービス改善を図りケアに生かす様にし、(現在は定期的にご家族様に連絡行い状態報告したうえで要望を伺うようにしている)運営推進会議で報告を行っている。	職員は、日頃の利用者とのかかわりのなかで、意見や要望等を聞いている。家族等については、電話連絡や来訪時に、意見等を聞いている。把握した意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンス、定期的な職員面接、職員と密にコミュニケーションを図り職員の意見、提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	管理者は、日頃から職員に声をかけ、意見や提案を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。カンファレンス等で意見を聞く機会を設けている。SNSを活用し、意見把握・意見交換を行っている。把握した意見等は、代表者に伝えるなどして、運営面に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する事を推奨し、利用者との触れ合いにやりがいを見つけられる様、支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で業務をカバーしながら、積極的に研修に参加出来る環境を作り、知識、技術の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、研修会参加、同グループ内施設へ見学、グループ内職員と交流、意見交換を行っている。又、ケアマネネットワーク会議にも参加し情報を収集している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までに、本人、家族に何度か会う・連絡を行い希望の把握に努め、スムーズな利用を目指している。利用初めのうちは積極的に声掛けし、リラックスして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えを伺い、それに添ってケアをする、又、主介護者だけでなくその他の家族からも話を聞き信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内の他部署と連携を図っている。家族からの相談内容に添ったケアプランを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯畳み、お盆拭き等、利用者様のできる事を見つけ、少しの援助でできる役目を増やしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会に制限はあるが可能な限り、外出、面会をお願いしている。こまめに連絡を入れ、家族に相談し、意見を頂いたり、毎月送付するお便りとは別に個人個人、写真付きお便りを送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのドライブなどで、利用者の町や自宅、思い出の場所に出掛け話題にしている。	事業所では、対面とオンラインを併用し、利用者と家族等が面談できる機会を設けている。少人数で、自宅周辺や見慣れた場所へドライブに出かけている。また、電話のやりとりを支援するなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の把握に努め、毎日出来るだけ交流出来るよう支援し、作品作りなども、共同制作し、交流出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			2階 実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じ、相談、支援を行っている。又、入院された方には入院先の相談員、家族に状態を聞き、可能な限り、グループ内施設での受け入れ先の提供が出来るよう心掛けている。		/	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望は日々の生活の中での会話で把握し、家族に相談しながら意思決定に添ったケアや援助に努めている。		職員は、日頃の利用者とのかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、声かけやアプローチに対する様子を伺ったり、家族等から情報を得たりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞いたり、家族の面会時や連絡時に出来るだけ情報収集し、個人個人のファイルやカルテに控えている。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル、食事量、水分量、排泄のチェックをしている。状態変化は援助記録に記載し、気になる事、特別な変化は医師、看護師、家族様に連絡、相談している。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、職員がそれぞれ意見を出し検討し、ケアに生かす様に努めている。計画見直し時期に関係なく状態により計画の見直しを行っている。		事業所では、利用者や家族等の意見や要望を反映した介護計画を作成している。全職員で意見を出しあい、医師や看護師、理学療法士の意見等も取り入れている。日頃から、生活記録や夜間記録を用いて、モニタリングを行っている。利用者の心身状況の変化に応じて計画を見直すなど、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の日誌の確認、申し送りノートにそれぞれがが気づき等記載し確認を徹底し、ケアプランに活かしている。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の、状態、状況、変化に応じ、専門病院の受診や外部デイサービス利用の支援に努めている。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り行事への参加、見学をして頂いたり、ボランティアによる演芸鑑賞(コロナ前)近所の神社へ散歩に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の在宅療養支援診療所と連携し、日々の心身状態の把握に努めている。また受診の際の情報提供を本人、家族の求めに応じ丁寧に対応している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。2週間に1回、協力医による訪問診療がある。耳鼻科や歯科の往診もある。専門医の受診は、家族等の協力を得て、支援している。協力医や看護師、家族等と連携し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師、訪問看護師に日々の情報、気づきを伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の富士医院と連携し、入院先の病院地域連携室の相談員と密に情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明に加え、重度化した場合、終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合う。家族と主治医の話し合いの場を設けている。必要時、訪問看護サービスの提供を行っている。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針を説明し、利用者や家族等の意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を再確認している。医療関係者と24時間の連携体制を整備し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット事例の書面化による危険の再認識、カンファレンスで職員間で対応方法を確認している。又、高齢者がかかりやすい病気とその症状についても日々勉強、確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についてカンファレンスで話し合い災害時の連絡方法を書面化し、事務所内に掲示している。また、もしも、に備え、消防署職員による指導を受け、非常階段を使用し外に出る練習を行う。	事業所は、災害時のマニュアルを作成している。年1回、消防署の協力を得て、日中の火災を想定した避難訓練を行っているが、夜間想定や地域住民の協力を得た訓練を実施するまでには至っていない。	今後は、夜間想定での訓練を実施し、少数の職員での避難方法について確認することが望まれる。また、人員不足を補うために地域住民の協力を得るなど、スムーズな避難に繋がることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			2階 実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し、個人個人の性格、特徴に合わせ、優しく丁寧な声掛けを行う様心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。利用者の気持ちを大切に、自己決定しやすい言葉かけを行っている。入浴や排せつ等の支援の際には、同性職員が行うなど、プライバシーや羞恥心にも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、話しやすい環境作りに努め、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をし、思いや考えをお聞きしている。又、自己決定や意思表示を見逃さない様努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り規則正しい生活を元に、個人個人の体調に合わせてつつ、積極的にリハビリになるよう体操等も取り入れながら、望まれる1日の過ごし方を大切に、対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、カット、希望者には毛染めも施行している。化粧される方は、職員が見守り、援助を行う。毎日の洋服についても本人と相談し選んでいる。化粧品も希望者には購入援助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りを行い、和やかに食事が楽しめるようにし、同時に食事状況を把握し、食事形態も日々の体調に合わせている。食後のお盆拭きを手伝って頂いている。	事業所では、利用者の体調等に応じて、とろみやきざみなど、食事の形態を変更している。ペースト状の場合は、献立を説明し、味わってもらっている。事業所の菜園で栽培した野菜を活用したり、おやつづくりを行ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を増やしてはいけない方、糖尿病の方の食事を調節したり、個々に合った、食事形態、トロミ、ゼリーの使用、夜間の水分はトイレ離床時、パット交換時に合わせ飲用援助を行い、一人ひとりの状態に応じ支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし一人ひとり口腔ケアをして頂いている。ご自身で出来ない方は職員が援助している。又、うがいができない方はスポンジブラシ、不織布等で口内清拭を行う。夕食後、義歯を預かり消毒している。			

自己	外部	項目	2階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表で排泄の時間や尿量を確認、把握し早めのトイレ案内、個々にあったパットの使用を行っている。下着類の上げ下げも出来るだけご自身で行って頂いている。	職員は、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握している。日中は、二人で介助を行うことで、車椅子の方もトイレで排せつすることができるよう工夫している。夜間は、利用者の心身状況にあわせて、無理のないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品、水分を積極的に摂取して頂き、体操に取り組んでいる。便秘時は腹部や、肛門部周辺のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望、体調に合わせて入浴日や部分浴への変更も随時行っている。部分浴やシャワー浴になることもある。世間話、歌を歌うなどしながらゆっくり湯船で温まって頂く。外部デイサービスを利用している方がいるので入浴日は殆ど決まっている。	事業所では、少なくとも、週2回の入浴ができるよう支援している。浴槽に浸かることが難しい利用者には、シャワー浴とともに足湯を行うなど工夫している。入浴を拒む利用者には、声かけや時間を変えるなど、工夫しつつ、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応でその日のリズム、夜間帯の状況を把握し、安心の休息になるよう援助に努めている。自宅での習慣の配慮も心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の確認と、申し送りノートでの処方薬の変更を確認し、状態変化に気をつけている。服薬援助時、薬袋の氏名、日時確認、薬は袋から出して手渡しまたは口中介助し飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の趣味、本人の好む仕事を見つけ、個人個人に合った気分転換をして頂いている。趣味が生かせるよう作品展示をしたり、おやつ作り、保存食作りをして頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に外出の機会を設けている。ドライブを含め、車内から楽しんで頂く事もある。近くへの散歩も日常的に行っている。又、外部デイサービスへ出掛けるための支援を行っている。	事業所では、気候の良い日に、近隣の神社へ散歩に出かけている。季節の花見や馴染みの場所へも少人数でドライブに出かけている。車中から花や景色を眺めるなど、安全面に配慮しつつ、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望と、家族の了承のもと、代理で買い物に行き担当者が、金品の支払い、管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛ける援助をしたり、家族からのハガキ、写真をファイルに綴じたり、飾ったりしている。又、毎月のお便り以外に個別に状況等をお知らせするお手紙も郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵、手造り作品を掲示している。季節の草花を飾ったり、絵を掛け替え季節感を演出している。換気もこまめに行い、雨季の除湿、冬場の乾燥に、気を付けている。	共用空間は、日光が差し込み、明るい。利用者とともに作成した作品を飾り、季節を感じることができるよう工夫している。踊りが好きな利用者や歌が好きな利用者のために、阿波踊りの音楽や歌謡曲を流すなど、一人ひとりが好きなことをして過ごすことができる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを置き、横になったり、気のあった利用者を近くの席にする。車椅子の出入り等も考え、席替えも行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と、家族の意見を大切にし、本人の好きな物を飾ったり、家族から送られた写真やハガキをいつも見れるようにしている。	居室には、利用者一人ひとりの馴染みの家具や家族・思い出の写真、ぬいぐるみ、作品等を持ち込んでもらっている。お気に入りの品を持ち込むことで、その人らしく、落ちついて過ごすことができる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは電動が多く、体への負担を軽減している。必要に応じ、エアーマット、センサー等導入し安全な環境作りを心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中の特に「尊厳のケア」よりGHの理念「笑顔満開」を作り、日々利用者様の笑顔構築に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の訪問交流、音楽、ダンスのボランティア、祭りの神輿見学、フロア内での浦安の舞の踊りなど、地域行事に日常的に参加していたが、コロナの影響でできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症の人への理解、支援方法を地域の人に伝えていたが、コロナの影響以降開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、実践報告など行い、改善に向けご意見を貰い、職員間で話し合い新しい取り組みをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はコロナの影響で、書面のみで活動内容等のお知らせを送付し意見を貰っている。包括支援センター、市主催の勉強会に参加し情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスに身体拘束についても話し合いの時間を作り、皆で勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、日頃より職員間で話し合いをしている。言葉遣い、対応等の見直しも常時行い、事例等を用い、カンファレンス時、時間を設け勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、積極的に権利擁護に関する制度の勉強会に参加し利用者様家族を支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文書、口頭で必ず説明し、改定等が有れば、書面で送付した上で面会時や、電話等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で開催出来ていないが、家族会で、参加者全員にアンケートを配布、ケアプラン説明時に要望を伺い、サービス改善を図りケアに生かす様にし、(現在は定期的にご家族様に連絡行い状態報告したうえで要望を伺うようにしている)運営推進会議で報告を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンス、定期的な職員面接、職員と密にコミュニケーションを図り職員の意見、提案を聞く機会を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する事を推奨し、利用者との触れ合いにやりがいを見つけられる様、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で業務をカバーしながら、積極的に研修に参加出来る環境を作り、知識、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、研修会参加、同グループ内施設へ見学、グループ内職員と交流、意見交換を行っている。又、ケアマネネットワーク会議にも参加し情報を収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までに、本人、家族に何度か会う・連絡を行い希望の把握に努め、スムーズな利用を目指している。利用初めのうちは積極的に声掛けし、リラックスして頂き、他の利用者様と打ち解けられる様職員が仲を取り持つよう努めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えを伺い、それに添ってケアをする。又、主介護者だけでなくその他の家族からも話を聞き信頼関係を築くよう努めている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内の他部署と連携を図っている。家族からの相談内容に添ったケアプランを提供している。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯畳み、お盆拭き等、利用者様のできる事を見つけ、少しの援助でできる役目を増やしていく。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会に制限はあるが可能な限り、外出、面会をお願いしている。こまめに連絡を入れ、家族に相談し、意見を頂いたり、毎月送付するお便りとは別に個人個人、写真付きお便りを送付している。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのドライブなどで、利用者の町や自宅、思い出の場所に出掛け話題にしている。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の把握に努め、毎日出来るだけ交流出来るよう支援し、作品作りなども、共同制作し、交流出来るよう支援している。					

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じ、相談、支援を行っている。又、入院された方には入院先の相談員、家族に状態を聞き、可能な限り、グループ内施設での受け入れ先の提供が出来るよう心掛けている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望は日々の生活の中での会話で把握し、家族に相談しながら意思決定に添ったケアや援助に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞いたり、家族の面会時や連絡時に出来るだけ情報収集し、個人個人のファイルやカルテに控えている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル、食事量、水分量、排泄のチェックをしている。状態変化は援助記録に記載し、気になる事、特別な変化は医師、看護師、家族様に連絡、相談している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、職員がそれぞれ意見を出し検討し、ケアに生かす様に努めている。計画見直し時期に関係なく状態により計画の見直しを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の日誌の確認、申し送りノートにそれぞれがが気づき等記載し確認を徹底し、ケアプランに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の、状態、状況、変化に応じ、専門病院の受診や外部デイサービス利用の支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り行事への参加、見学をして頂いたり、ボランティアによる演芸鑑賞(コロナ前)近所の神社へ散歩に出かける、近所へ来る移動図書館に本を借りて職員と出掛けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の在宅療養支援診療所と連携し、日々の心身状態の把握に努めている。また受診の際の情報提供を本人、家族の求めに応じ丁寧に対応している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師、訪問看護師に日々の情報、気づきを伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の富士医院と連携し、入院先の病院地域連携室の相談員と密に情報交換、相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明に加え、重度化した場合、終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合う。家族と主治医の話し合いの場を設けている。必要時、訪問看護サービスの提供を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット事例の書面化による危険の再認識、カンファレンスで職員間で対応方法を確認している。又、高齢者がかかりやすい病気とその症状についても日々勉強、確認を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についてカンファレンスで話し合い災害時の連絡方法を書面化し、事務所内に掲示している。また、もしも、に備え、消防署職員による指導を受け、非常階段を使用し外に出る練習を行う。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し、個人個人の性格、特徴に合わせ、優しく丁寧な声掛けを行う様心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、話しやすい環境作りに努め、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をし思いや考えをお聞きしている。又、自己決定や意思表示を見逃さない様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り規則正しい生活を元に、個人個人の体調に合わせてつつ、積極的にリハビリになるよう体操等も取り入れながら、望まれる1日の過ごし方を大切に、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、カット、希望者には毛染めも施行している。化粧される方は、職員が、見守り、援助を行う。毎日の洋服についても本人と相談し選んでいただくか、ご自身で選べる方は、ご自身で選んでもらう。化粧品も希望者には購入援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りを行い、和やかに食事が楽しめるようにし、同時に食事状況を把握している。食後のお盆や、テーブル拭き、食器洗いを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を増やしてはいけない方、糖尿病の方の食事量を調節したり、個々に合った、食事形態、トロミ、ゼリーの使用、夜間の水分をペットボトルで居室に準備する等、一人ひとりの状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし一人ひとり口腔ケアをして頂いている。ご自身で出来ない方は職員が援助している。夕食後、義歯を預かり消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表で排泄の時間や尿量を確認、把握し早めのトイレ案内、個々にあったパットの使用を行っている。下着類の上げ下げも出来るだけご自身で行って頂いている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品、水分を積極的に摂取して頂き、体操に取り組んでいる。便秘時は腹部や、肛門部周辺のマッサージも行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望、体調に合わせて入浴日や部分浴への変更も随時行っている。部分浴やシャワー浴になることもある。世間話、歌を歌うなどしながらゆっくり湯船で温まって頂く。外部デイサービスを利用している方がいるので入浴日は殆ど決まっている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応でその日のリズム、夜間帯の状況を把握し、安心の休息になるよう援助に努めている。自宅での習慣の配慮も心がけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の確認と、申し送りノートでの処方薬の変更を確認し、状態変化に気をつけている。服薬援助時、薬袋の氏名、日時確認、薬は袋から出して手渡しまたは口中介助し飲み込みを確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の趣味、本人の好む仕事を見つけ、個人個人に合った気分転換をして頂いている。趣味が生かせるよう作品展示をしたり、おやつ作り、保存食作りをして頂く。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に外出の機会を設けている。ドライブを含め、車内から楽しんで頂く事もある。近くへの散歩も日常的に行っている。又、外部デイサービスへ出掛けるための支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望と、家族の了承のもと、代理で買い物に行き担当者が、金品の支払い、管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛ける援助をしたり、家族からのハガキ、写真をファイルに綴じたり、飾ったりしている。又、毎月のお便り以外に個別に状況等をお知らせするお手紙も郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵、手造り作品を掲示している。季節の草花を飾ったり、絵を掛け替え季節感を演出している。換気もこまめに行い、雨季の除湿、冬場の乾燥に、気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを置き、横になったり、気のあった利用者を近くの席にする。車椅子の出入り等も考え、席替えも行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と、家族の意見を大切に、本人の好きな物を飾ったり、家族から送られた写真やハガキをいつも見れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは電動が多く、体への負担を軽減している。必要に応じ、エアーマット、センサー等導入し安全な環境作りを心掛けている。		